

微小害虫類およびうどんこ病に対する気門封鎖型薬剤の防除効果

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

ハダニ類やアブラムシ類など薬剤抵抗性が発達しやすい害虫に対して、気門を塞ぐことで殺虫効果をあらわす薬剤（以下、気門封鎖型薬剤）5剤の殺虫効果を確認するとともに、うどんこ病に対する抑制効果についても確認した。気門封鎖型薬剤は薬剤抵抗性が発達しにくく、カブリダニなどの天敵に影響が小さい。さらに使用回数制限は設定がないか、他の薬剤に比べて多いため、薬剤ローテーションや総合防除体系に組み入れやすいので、参考資料とする。

2 参考資料

1) ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病に対する気門封鎖型薬剤5剤の相対的な防除効果は表1のとおりであり、薬剤ローテーションに組み入れたり天敵と併用できる。

表1 各気門封鎖型薬剤の防除効果（○＞△の順で効果は高い）

薬剤名 (商品名)	希釈 倍数	対象病害虫（下段は各薬剤の主な登録作物）				使用 回数
		ハダニ類	アブラムシ類	コナジラミ類	うどんこ病	
澱粉液剤 (粘着くん液剤)	100	○ 野, 花, もも	○ 野, りんご	△ トマトのタバコ コナジラミのみ	(△)	—
還元澱粉糖化物液剤 (エコピタ液剤)	100	(○)	○ 野, 花	(○)	△ キュウリ, バラ	—
プロピレングリコールモノ 脂肪酸エステル乳剤 (アカリタッチ乳剤)	1,000 ～2,000 (うどんこ病は 2,000)	○ 野, 果	(△)	(△)	○ 野	野:6回 果:3回
レイン酸ナトリウム液剤 (オレート液剤)	100	(△)	○ 野, 果, きく, バラ	○ トマトのタバコ コナジラミのみ	○ イチゴ	—
脂肪酸グリセリド [※] (サンクスタル乳剤)	300～600 (アブラムシ類は 300)	△ 野	△ 野	(○)	○ 野	—
参考データ		図1	図2	図3	図4	

* (○), (△) は、どの作物にも登録がないことを示す（2007年2月7日現在）。

* 「野」は野菜類、「花」は花き類・観葉植物、「果」は果樹類の登録をそれぞれ示す。

* 使用回数の「—」は設定がないことを示す。

3 利活用の留意点

- 1) 気門封鎖型薬剤は残効性がないため、虫体に十分かかるように散布する。
- 2) 薬害が出やすいため、過去に散布したことのない作物に散布する場合は、あらかじめ数株に散布して薬害の出現の有無を確認する。

(問い合わせ先：農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話 022-383-8123)

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題及び研究期間 寒冷地の施設イチゴにおける病害虫総合管理システムの体系化と実証
平成 16 ~ 20 年
- 2) 参考データ

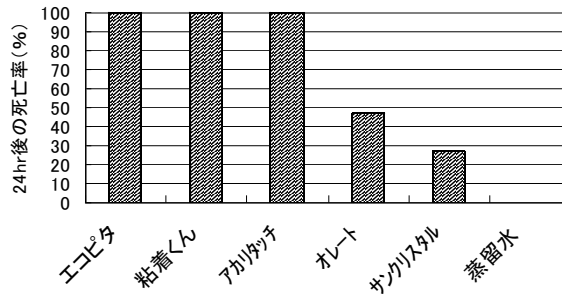


図1 ナミハダニ雌成虫に対する各気門封鎖型薬剤の殺虫効果 (2005年, 室内試験)

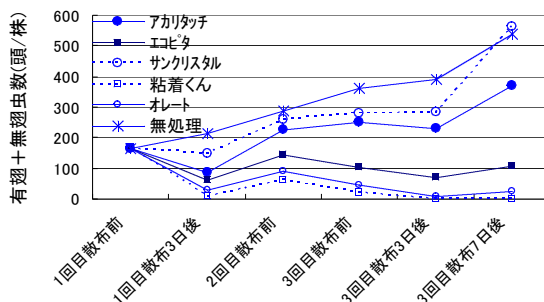


図2 ワタアブラムシに対する各気門封鎖型薬剤の殺虫効果 (2005年, イチゴポット試験, 7日間隔で3回散布した)

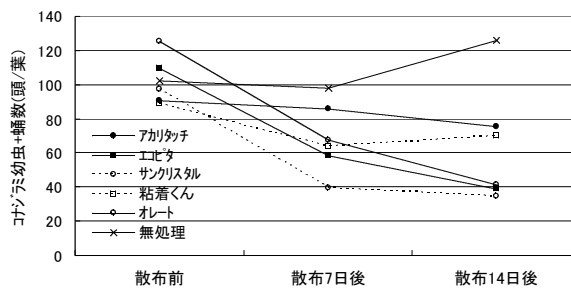


図3 オンシツコナジラミに対する各気門封鎖型薬剤の殺虫効果 (2005年, イチゴポット試験)

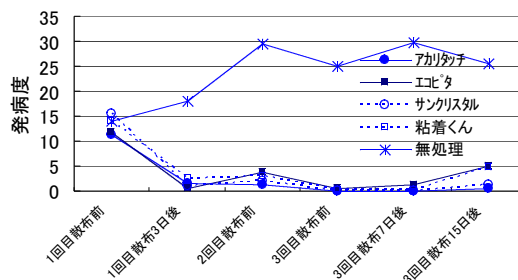


図4 うどんこ病に対する各気門封鎖型薬剤の防除効果 (2004年, イチゴ圃場試験, 7日間隔で3回散布した)

3) 発表論文等

- 平成 18 年度 北日本病害虫研究会報第 57 号
平成 18 年度 今月の農業第 50 号 7 卷